

木材価格市況標準相場

令和7年12月3日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目 3

南洋材・中国材 2
合板 1

(2) 値下げ品目 3

合板 3

○今月の市況動向

11月の商況については、荷動きの鈍さを指摘する声が多く確認された。一方、原木価格は依然として高止まりの状態にあり、製品在庫も潤沢とは言えない状況である。輸入材に関しては、急激な円安の進行により、先物価格が現行の販売単価では赤字となる水準に達している旨の報告もあった。

(国産材) 構造材の動きは相変わらず鈍いものの、注文材については引き続き忙しい状況が続いている。原木の出材量は決して多くなく、秋田では12尺の中目丸太が17,000円台後半で落札された。

(輸入材) セランガンバツーについては、EUDR(欧州森林破壊防止規則)の施行を前にしたヨーロッパ勢の駆け込み需要に加え、現地での大雨による丸太不足が重なり、値上がりとなった。先月に引き続き値上げとなったメルクシーパイン集成材は、スマトラ島での大雨被害の影響を受け、今後も価格高騰が進む可能性が高い。

(合板) 国内針葉樹合板については、需要の盛り上がりは見られないものの、一部では納期がかかり始めている。輸入合板に関しては、東日本において欠品アイテムを中心に値上げが進行している。